

【プロジェクト概要】

1. 立地 〈中央区勝どき〉

本物件は銀座1.7km圏^{※2}、東京駅2.6km圏^{※2}に位置する中央区勝どき5丁目に誕生し、勝どき5丁目は今後さらなる発展が期待されている土地でもあります。隣接する新たな幹線道路「環状第2号線^{※4}」（平成28年開通予定）の完成により、勝どき5丁目と港区が結ばれ、汐留・新橋がより身近になります。

都心物件でありながら、水辺と緑が身近ということも本物件の特徴です。近くには隅田川が流れ、その対岸には「新東京百選」にも選出されている「浜離宮恩賜庭園」があり、水と緑の潤いを存分に感じられる立地となっております。



〈立地眺望写真〉

本物件に隣接する晴海埠頭は平成32年東京オリンピック・パラリンピックの選手村建設予定地となっており、今後、建設予定地周辺がますます発展していくことが予想されます。

※2 銀座4丁目交差点まで直線距離で約1.7km、道路距離は約2.2km。また東京駅八重洲中央口まで直線距離で約2.6km、道路距離は約3.4km。

※4 現地より約10m。江東区有明を起点とし、中央区、港区などを経て千代田区神田佐久間町を終点とする全長約14kmの都市計画道路で、平成28年に豊洲～汐留間が開通することで全面開通（完成）となります。平成28年完成予定。

2. 物件

物件の形状は住宅の開口部を拡大し豊かな陽光を取り込める「トライスター型タワー」を選択。建物内に緑を取り込むと共に立地にふさわしいタワーをデザインし、水辺に映える白を基調にしたことで、都市としての美しい景色を目指しました。



〈外観完成予想図〉

超高層からの眺望が魅力の40F「スカイビューラウンジ」、緑に囲まれた、癒しのプライベート空間「ライブラリーラウンジ」や「フォレストカフェ」、「都市・伝統・自然」をテーマとした6つの「ゲストルーム」など、国内最大級、総戸数1,420戸・地上53階建という大規模タワープロジェクトならではの多彩な共用施設を実現しました。

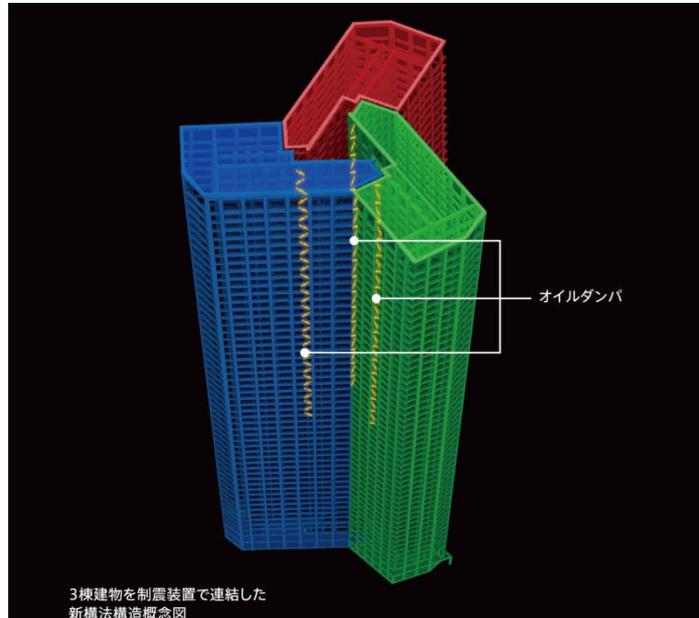


〈40F スカイビューラウンジ〉

3. 構造 〈世界初「VD コアフレーム構法^{※5}」による、安全性と開放的居住空間〉

3 棟の建物間に制震装置（オイルダンパ）を配置し、3 棟の建物全体で地震による揺れを吸収する、安全性と信頼性の高い、世界初の「VD コアフレーム構法^{※5}」を世界で初めて採用しました。この新構法は、強風時の揺れも軽減し、その居住性も向上します。3 棟建物を制震装置で連結した新構法を採用することで、各棟の先端部には、開放的で明るい居住空間が実現します。

※5 建物外周と内周に架構を集約した、ダブルチューブ架構と内周架構にブレース形式にて組み込んだオイルダンパの組み合わせによる新架構。高い安全性の確保とスパン拡大、開放性の向上を図ります。



〈VD コアフレーム構法概念図〉

【コミュニケーションコンセプト】

東京の魅力がこの地に結集し、妥協なき東京の選択肢となるというメッセージを込めて、

『TOKYO UNITED』というコミュニケーションワードを開発しました。

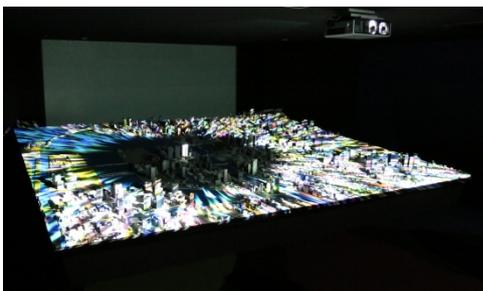
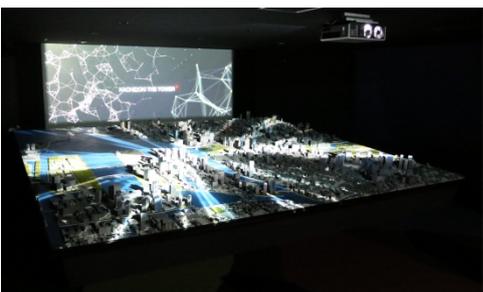
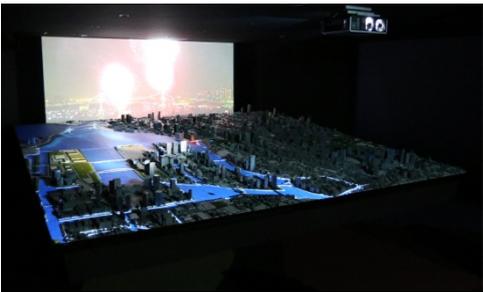
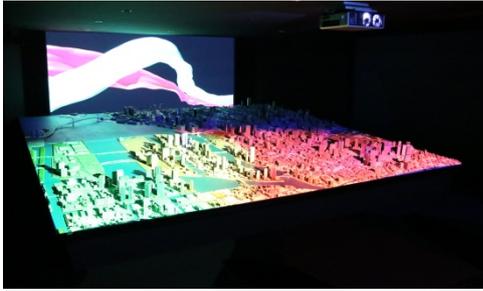
勝どき 5 丁目は「中央区（銀座を庭とする）」×「港区直結^{※6}（情報とビジネスの先端）」×「水都緑景（潤いの都心）」という『三位一体』の魅力を手にすることができるロケーションとなることから、中央区を赤、「港区直結」を青、「水都緑景」を緑のリボンとして表現し、本物件のシンボルとしました。



〈メインビジュアル〉

※6 平成 28 年開通予定の環状第 2 号線によって勝どき 5 丁目と港区（汐留）がつながることを表したものです。現地より港区の「汐留」駅まで環状第 2 号線開通後は約 1390m（徒歩 18 分／現在は約 2560m（徒歩 32 分））。

◆ジオラマ&プロジェクションマッピングシアター



◆ホログラムシアター

